

F 揚水式水力の揚水動力等

- 揚水式水力については、定期点検や事故時対応等を想定し、必要な最低台数（1台）は予備電源として確保。また、安定供給上必要となる上池の貯水量は確保した。混合揚水については、上池及び下池への流入量や放水量の制限についても考慮した。
- その上で、kW（揚水動力）とkWh（蓄電容量）の制約及び週間運用（放水）を確認し、再エネの余剰電力を吸収するため最大限活用することを前提とした。
- 揚水動力可能時間については、最大動力時（想定稼働台数）の値を記載した。

	北海道	東北※1	北陸	中国	四国	九州※1	沖縄
想定稼働台数／ 全台数	5/6	3/4	1/1	8/9	1/2	8/9	-
揚水出力（万kW） 想定稼働／全台数	60.0/80.0	50.0/75.2	11.0/11.0	182.5/212.5	31.5/61.5	205.0/235.0	-
揚水動力（万kW） 想定稼働／全台数	67.0/90.0	50.0/75.2	12.0/12.0	171.0/201.0	30.0/60.0	224.2/258.2	-
揚水可能量 （万kWh） [揚水動力可能時 間※2（h）]	563 [8.4h]	揚 水：3,413 [74.2h] 蓄電池： 4 [1.0h]	58 [4.8h]	1,723~1,742 [10.1~10.2h]	745 [24.8h]	揚 水：1,756 [8.0h] 蓄電池： 30 [6.0h]	- [-h]
設備一覧 （出力／揚水動力） （万kW）	新冠1～2 (10.0/10.0) 高見1 (10.0/10.0) 高見2 (10.0/14.0) 京極1～2 (20.0/23.0)	第二沼沢1～2 (23.0/23.0) 下郷 (25.0/25.0) 南相馬（蓄電池） (4.0/4.0) ※池尻川は容量が 小さく(0.234)、農業 用水の調整が必要な ため、計上していない。	電発長野 (11.0/12.0)	俣野川1～4 (30.0/30.0) 南原1～2 (31.0/30.0) 新成羽川1 (7.7/-) 新成羽川2～4 (7.6/7.0) ※新成羽川1は 発電専用	本川1 (31.5/30.0) 本川2 (30.0/30.0)	大平1,2 (25.0/26.1) 天山1,2 (30.0/32.5) 小丸川1～4 (30.0/34.0) 豊前（蓄電池） (5.0/5.0)	-

※1 東北電力には蓄電池（4万kW×1時間）、九州電力には蓄電池（5万kW×6時間）を含む。

※2 揚水動力可能時間は、揚水可能量÷揚水動力（想定稼働台数）で算定